



No. '23-3

(No.114)

J

July. 2023

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1. チャット GPT に聞きました	会員	菊池善次郎	2
2. 第84回黒船祭の学校訪問記	会員	加藤 達雄	7
3. K's サロンの再開	会員	小松 透、二美	10
4. 坂口安吾と伊東	会員	小西 恒男	12
【事務局便り】			17
【編集後記】			18



英語サロン風景

チャット GPT に聞きました



会員 菊池 善次郎

今年4月頃からチャット GPT という言葉をよく耳にします。生成 AI（人工知能）とか対話型 AI とも云うらしい。3日にあげず新聞やテレビのニュースによく出てきます。世界中の話題となっています。

「何これ？何故世界中が注目？」。皆さんもそう思った人が多いと思います。昨年11月アメリカのオープン AI 社と云う会社が開発した驚異的人口知能だと云うことです。早速オープン AI 社のサイトにコンタクトしメールアドレスやパスワードを設定し利用許可の登録をしました。無料の英語バージョンです。パソコン画面にアイコンも登録しました。

因みに、チャット GPT はチャット=Chat, GPT=Generative（文章を生成する）Pre-trained(事前学習された) Transformer(変換器)ということだそうです。

以下、私のチャット GPT の利用体験と感想です。

●ChatGPT って何？

話相手になったり頼むと仕事をしてくれるオンラインソフトなのですが、分かり易く云うと実に物知りで何でも知っているスーパー物知り博士が自分のパソコンの中に住まっていると云う感じですか。そして好きな時に何時でもキーボードをたたいて質問すると瞬時に、親切に、詳しく、長々と、丁寧な話し言葉で答えてくれる、というものです。実に物知りです。世界中の有りと有らゆる分野のことを教えてくれます。現在の事も、過去の事も、未来予想の事もです。

会話形式ですので丁度生徒が先生に質問する様に会話ができます。私の質問の仕方が悪くて答えが腑に落ちない時は「そう云うことを聞いているのではありません。私の質問の意味はこれこれで

す」と修正すれば ChatGPT も改めて修正した答えを考えてくれます。

ChatGPT は質問に答えてくれるだけではなく、例えば結婚式、同窓会、祝賀会、お葬式等の「挨拶

(文章)」の原稿を頼めば即座に作ってくれます。また、小説などの感想文までも作ってくれます。

好きな時に会話が出来て知りたいことを教えてもらえるスーパー博士と頼めば喜んでいろいろ仕事を手助けしてくれる強力なアシスタントが自分のパソコンの中に住んでいる、そんな感じです。

●ChatGPT を使って見た具体例 (の一部)

(注) 質問と ChatGPT の回答文は前述の通り英語ですがこれを日本語に訳し、紙面の関係で内容を短く簡略化し要点のみを記載します。

<質疑応答例>

○質問; 私は伊豆半島への観光旅行を考えています。どこがいいか5か所に絞って教えて下さい。

●ChatGPT; 以下5か所をリコメンドします。

- ①伊東市城ヶ崎海岸 (絶景)
- ②修善寺温泉
- ③下田 (日米歴史の地)
- ④河津 (七滝、ループ橋)
- ⑤熱海 (温泉、MOA 美術館)



○質問; 西伊豆にも行くとしたら何処がいいですか?

ChatGPT が選んだ伊豆の観光スポット五選の一つ
城ヶ崎海岸の絶景 (門脇岬から南方を望む)

●ChatGPT; 西伊豆にも素晴らしいところがあります。

す。堂ヶ島、土肥金山、松崎などは如何ですか。

○質問; 伊豆でおいしい食べ物は何でしょう?

●ChatGPT; 伊勢エビ、その他新鮮なシーフード。ワサビや静岡名産グリーンティーも楽しんで下さい。

.....

○質問；伊東には外国人観光客をガイドする ISGG という団体があります。昔は多くの来日外国人からガイドの依頼がありましたが最近では依頼が激減しています。コロナ禍と云う要因を除いて何故でしょうか？

●ChatGPT;いろいろあろうかとは思いますが、例えば次の様なことが考えられます。

ICT（情報通信技術）のグローバルな普及によって言葉の壁を越えて何時でも何処に居ても必要な情報を誰でもが自国語で翻訳して試みる事が出来る様になり、現地で Face-to-face で情報を得る（説明をしてもらう）必要が少なくなった。

特にスマートフォンの“wide-spread availability”は“significant factor”と考えます。地図アプリの普及も一因と考えます。その他近頃は自分自身のペース(my pace)で旅をしたい人が増えているのかもしれませんが。又、経済的ファクター（為替レートなど）も一因でしょう。等々。

.....

船に関する専門的なことも聞いてみました。

○質問；近年世界の海で船舶の衝突事故がよく発生しています。何故あの広い海で船舶の衝突事故が発生するのでしょうか？

●ChatGPT;いろいろ理由があります。近年世界の海は混雑の傾向にあり港やシーレーンで船と船が接近する機会が増えています。船員のヒューマンエラーは大きな事故原因です。視界を遮る霧や大雨/大風など気象・海象の変化も事故原因となります。航海機器の故障が大きな海難の原因となります。船の国際ルール（海上衝突予防法）を守らない船もいます。その他ケースバイケース、個々の原因あり。

○質問；海難事故の大きな原因が船員のヒューマンエラーに基づくことはよく聞かれます。では、これを少なくするにはどうしたらいいのでしょうか？

●ChatGPT; 先ず船員の教育訓練を繰り返し行うことです。

船内業務の平準化とマニュアル化が必要です。

船員は常に警戒感と緊張感をもって業務にあたり、他船の動向、 周囲の環境、気象海象の変化、使用機器の状況を常に頭に入れ知っておくことです。

船員の適切な休息はヒューマンエラーを少なくします。

船内常にいいコミュニケーションを保つことです。船員は常に安全意識と安全文化を心におくべきです。その他。



雑誌“海と安全(2006年冬季号)”表紙よりコピー

(コメント); 海技試験や入社試験問題の解答としても ChatGPT の答は合格点レベルと考えます。

船の安全運航管理や航路選定、世界の運河などの話題を質問してみました、すべて素晴らしい合格点の解答でした。

<文章を作って貰った例>

先月、勤めていた会社の同期会がありました。最後の同期会ということだったので一人ひとり挨拶をさせられると思い、試しに ChatGPT に「3分間スピーチ」の原稿を頼んで見ました。その前に挨拶に含めて貰いたい事項、例えば毎年いい同期会だったことや今回が最後となること、幹事への感謝の気持など 2~3 条件を ChatGPT に話しておきました。ChatGPT は数秒でスピーチ原稿を作ってくれました。内容は私が話そうとしていたものと同じ満足いくものでした。

.....

高校時代の英語の教材にアメリカの作家オー・ヘンリーの“The Gift of the Magi (賢者の贈り物)”がありました。内容をよく知っているので ChatGPT に感想文を依頼してみました。

ChatGPT の作った内容は当時先生が教室で説明してくれたことを思い出させてくれました。

すごい！

私の ChatGPT 利用体験（例）はこの辺で止めときます。

●そんな無責任な！

私はまだ ChatGPT に少し頭を突っ込んだだけで何とも言えませんが、実に便利なものが現れたものです。現代の文明開化です。すごい技術です。利用価値大有りです。と思う一方、悪用されないかと云う不安とぶっちゃけた話こんなにすらすらと数秒間で堂々と答えを出す ChatGPT は人間の勉強意欲を削いでしまうのではないかと云う心配を感じます。自分が小・中・高・大学、そして実社会で長年苦勞してものを覚え勉強してきたことは何んだっただろう？とさえ思わせます。人間社会にマイナスの影響を与えないか？小学生や中学生にこんなものを自由に使わせたら勉強なんかしませんよ。ものを覚えようとしませんよ。50年後、100年後人間は考えることをしないで結果だけを求めるバカになりますよ。人類破滅だ！などと考えたりしています。

現に ChatGPT を開発したアメリカオープン AI 社の社長 S. アルトマン氏（7月来日）や開発に携わった第一人者たちが『ChatGPT は核戦争やパンデミックに匹敵する人類存亡の危機をもたらす』などと云っています。『開発者自らそんな無責任な！』と言いたいところです。

オープン AI 社の出資者イーロン・マスク氏（テスラ）も『ChatGPT の如く人間と競合する知能を持つ AI は社会や人類に深刻なリスクとなりうる』、『ChatGPT の開発を半年間停止すべきだ』などと呼びかけています。これもまた開発を後押しした人の発言としては無責任だと思う。

ChatGPT 利用に対する日本政府、自治体、学校などの対応は『技術の進化には竿はさせない。使用禁止はできない。取りあえず様子を見ながら利用する方向』の態度（今のところ）の様です。

世界の国々も関心を持って動いています。イタリアはいち早く ChatGPT の使用を一旦ストップしました。欧州連合 (EU) は ChatGPT 使用の『包括的な規制法を早急に準備（現時点で使用禁止とはしない）』という対応。アメリカは一部の学校で使用禁止にしました。G7 参加国は『国際的規制の枠組みの中で議論する』との対応。中国は先日国家安全の観点で ChatGPT の「規制（許可制）」に動きました。

アメリカのハリウッドの俳優労組は ChatGPT も関係したストライキをしています。全米脚本家組合も ChatGPT をめぐりリストに入っています。アメリカの作家達は著作権侵害を理由に ChatGPT 開発者への訴訟を起こしています。そしてアメリカ連邦取引委員会は ChatGPT に関する大規模な調査を開始したと云うことです（ChatGPT の開発者達が ChatGPT の全てのからくりを完全にはオープンにしていなくても聞きます）。

私はこんな便利なものの開発に反対する者ではありません。しかし何らかの規制（使う人の年齢制限、利用できる事項、禁止事項、個人情報の扱いなど）を作ることが世界で早急に必要なのは間違いありません。人類が物を考えない能（脳）無しとならない為にも。

第 8 4 回黒船祭の学校訪問記



会員 加藤 達雄

5月19日（金）加藤守康さんと私、加藤達雄のダブル加藤で、アメリカ海軍の水兵さんの学校訪問に通訳としてお手伝いに参りました。

伊豆新聞には、この催しは「米国派遣艦乗組員と児童の日米交流会」と記載されています。黒船祭は、コロナ禍で中止や規模の縮小などがあって、米海軍の学校訪問は4年振り。

そのためか、下田市や小学校との連絡、手配が円滑に進まず、主原事務局長も切歯扼腕の思いで調整に手をこまねいておられた様子、結局2日前の17日になって、やっと具体的な行程が分かった次第です。

19日は11時11分南伊東で伊豆急に乗り込み、加藤守康さん（以下、加藤先生と記す）と合流、蓮台寺駅で下車、駅カフェでコーヒーなど飲みながら待つこと20分余り、下田市役所の職員の方が迎

えに来てくれました。送迎のバスは満員のため普通乗用車になったとのこと、結局、私たち二人だけ乗って稲梓小学校下に到着。同時に、駆逐艦ミリアスの水兵さん達を乗せた大型バスも到着し教頭先生の出迎えを受けました。学校に登る道が狭いため、この大型バスは入れません。水兵さん達は制服着用時、傘をさしてはいけないという規則だそうで、気の毒に雨の中、校舎まで 200m ばかりを濡れながら歩きました。

着くと、すぐに控室の図書室に案内されました。廊下やトイレには、ちゃんと英語の表示がしてあって、歓迎の気持ちがよく伝わってきました。

図書室に飲み物が用意してあり、そこで各々、名札を書いたのですが、Benjamin という水兵さんは、同僚が書いたアルファベットの名前の下に、何とカタカナでの名前を付け加えていました。感心して尋ねると「以前3年間、日本語ヲ勉強シマシタ。」と答が返ってきました。この部屋で 加藤先生が、リーダーと思しき士官に「交流会の終了時、皆を代表して何か一言、短いスピーチをお願いします」と依頼して了解を取り付けました。

そして体育館へ移動。

体育館には、すでに全校生徒 51 名が集合していて、16 人の米国からのゲストを拍手で出迎えてくれました。

先ず児童による歓迎の挨拶が述べられ、続いてアメリカ側からは 名前と出身地程度の簡単な自己紹介がなされました。

その後、これからやるゲームの説明がありました。

ステージに3人の生徒がいて、一人は玩具の槍、一人は鉄砲を持ち、もう一人はマイクを持って大きなスクリーンの前に立っています。



ゲーム風景

Animal Hunting というゲームでした。

一人目が I have a spear.

二人目が I have a rifle. と言い、最後の一人が

Look! と言うと、スクリーンに犬の絵と DOG の文字が映し出されます。DOG は3文字ですから3人

でグループを作り、座り込むというものです。

LION から始まり GIRAFFE やら ELEPHANT と徐々にレベルアップして行き、楽しく賑わいながら、このゲームは終了しました。

私は「HIPPOPOTAMUS カバ のような 12 文字なんか出てきたら文字を数えるだけでも大変だぞ」と不安を覚えました。幸いなことにこの word は出題されませんでした。

しばらくして、一年生～三年生が退出して、四年生～六年だけが残りました。

今度は、日米入れ混じっての「紅白の玉入れ合戦」でしたが4度やって全回とも白組の勝ちでした。これも大層盛り上がりました。

次に4組に分かれ、お互いに自己紹介やら好きな食べ物やら、趣味などを紹介しあいました。生徒たちは良く英語の準備をしていてとても和やかなひと時でした。

生徒の一人が自分の嫌いな事を I don't like ~. とやると水兵さんの一人が、すかさず I don't like to wake up early. と付け加えたりして和気あいあいの雰囲気でした。

そうこうするうち、予定の 14 時 30 分が近づき、また互いに整列し、生徒側から稲穂小学校の校歌斉唱、代表生徒のお礼の言葉がありました。

そして 米国側からの short speech は依頼したリーダーの士官ではなくて、意外にも、あの Benjamin が日本語で締めくくったのでした。

玄関脇の「WELCOME BOARD」の前で記念の集合写真を撮ったりして、再び控室に戻り、そこで今日の感想などを一言二言書いてもらい、帰りのバスへと向かいました。

帰りもひどい雨でした。アメリカの若い水兵さん達（うち二人は女性）は、礼儀正しく、しかも生徒たちには優しい笑顔を絶やさず立派に親善の役目を果たしていました。

一方受け入れ側、生徒さん達は言うまでも無く先生方、父兄、地元ボランティアの方（うち3名は素晴らしい英語だった）のご対応にも深く敬意を表すものです。

アメリカの皆さんを見送った後、私たち二人は市役所の車で下田駅まで送ってもらい下田発 15 時 38 分で帰って参りました。

改めて加藤先生、伊東発の電車の時刻を始め、数々のご手配有難うございました。

さて、今年は加藤守康さんと私（加藤達雄）、二人の参加でしたが、来年は、ISGG からも参加人数を増やして黒船祭のこの交流のお手伝いできればと願っております。

最後に言い訳を。

小学校の時分、先生から「遠足の作文を書く時、家を出るところから書き始める人がいます。そうじゃなくて、肝心の遠足自体の内容をしっかりと書きましょう」と言われたものです。

が、しかし今回は諸般の事情に伴い、電車に乗り込む前の話から始めてしまいました。

大変つれいしました。

K's サロンの再開



会員 小松 透 二美

コロナで暫くお休みしていた K's ハウスでの K's サロンが7月6日（木）に3年ぶりに再開しました。参加者は先輩の加藤（守）さん、小西さん、曾我さん、相良さんと今回初参加の小松（2名）の計6名でした。私にとっては初めての K's サロンでしたが、先輩たちにご指導いただきながら無事に終えることができました。

東海館の隣にある K's ハウスですが、伊東に住んでいながら私は東海館に初めて行ったのは、たまたまその4日前、イタリアから来た Andrea, Alice 姉弟を案内した時でした。昭和初期の建築の良さに心を打たれました。K's ハウスの内装は新しくなっていますが、建ったのは東海館より古

いと聞き感激しました。

今回のゲストはドイツから来たフィーナさん (Josephine)1名でした。Dresden 出身で Health Management を専攻している大学生です。

専攻が我々には最初よくわかりませんでした。

設備関係かと思ったり介護や医療の一部かと思ったり

しましたが違いました。日本の大学

にも健康マネジメント学科があることが後でわかりましたが、まだ新しい分野です。主な仕事としては企業、学校、病院などでそこにいる人達の健康管理があります。ですが社会全体から個人レベルまで様々な健康管理が関ります。

ゲスト一人に日本人6人で面食らったかもしれませんが、フィーナさんはやさしい素敵な人で沢山の質問にもこやかに答えてくれました。ライン川沿いの城やローレライ像などの美しさが目に浮かぶようでした。彼女の姉も日本に来た事があるそうです。

彼女の大学はドイツにあります。交換留学で韓国(釜山)の大学に来ていて、その途中で日本に来ました。彼女は既に大阪、箱根、鎌倉を訪れ、次の日は城ヶ崎海岸のハイキング、その次は東京(渋谷と銀座)の予定でした。

お菓子ではお煎餅の「ばかうけ」が気に入ったようで、持ち帰って貰いました。食事は済みました後なのでその場ではあまり食べませんでした。

K's ハウスには他にもお客さんはいらっしゃって声を掛けましたが、自分の時間を過ごしたり、食事を取ったりしていました。到着が遅いお客さんも多いようです。

次回ですが岩村さんのお話しでは8月はK'sハウスも繁忙期なので、9月以降でお願いしてきます。今後とも長く続くよう皆様のサポートを期待しています。



K's サロン風景

坂口安吾と伊東



会員 小西 恒男

戦前・戦後にかけて活躍した小説家・坂口安吾はご存知の方が多いと思う。

「伊東の文学（和久田雅之著・郷土文芸社出版）に坂口安吾について次のような記述がある。

……『昭和6（1931）年、「風博士」、「黒谷村」の二作品によって文壇デビューしたが、

彼の名前をいやがうえにも高め、戦後の代表作家にしたのは昭和21年に発表した「墮落論」と「白痴」であった。「墮落論」には次のような有名なくだりがある。『あなたたちの失っていたものは、初めから無かったものなんです。そういうまやかしの妄想を捨てて、早く人間の平常心に帰りなさい。特攻隊の勇士はすでに閻屋となり、未亡人はすでに新たな面影によって胸を膨らませているではないか。人間は変わりはない。ただ人間へ戻ってきたのだ。人間は墮落する。義士も聖女も墮落する。それを防ぐことはできないし、防ぐことに人間を救うことはできない。人間は生き、人間は墮ちる。そのこと以外の中に人間を救う便利な道はない。

安吾のこのことばは戦争に負け、生きる目標を見出しかねていた当時の人々をどれだけ勇気づけたであろうか。砂漠に水が沁みていくように、人々の心の奥深くに彼のことばは刻み込まれていったのである。まさにその時安吾は乱世の英雄であり、救世主であった。

一躍流行作家となった安吾はそれこそ寝食を忘れて書きまくった。ものを書くということは非常に根気のいる仕事であり、頭脳と精神が極度に緊張し覚醒していなければならない。

またその疲れを取るためには、十分な睡眠が必要である。安吾はそのため睡眠薬（アドルム）と覚醒剤（ヒロポン）を交互に使用していた。アドルムは日増しに使用量が増えてその

うち完全な致死量を飲むようになった。それに加えて多量の酒をあびるように飲むのだから、錯乱状態に陥ってしまった。特に昭和23年から24年の初めにかけての症状がひどかった。

とうとう安吾は24年2月、東大精神科に入院させられてしまった。それでも4月には退院できるほどに症状は安定してきた。夏頃になってまた雲行きが怪しくなってきた。医師の提案で気晴らしに伊東へでも遊びに行こうということになって出かけたが、汽車の中で乗客とケンカしそうになったりして、周りの人たちをヒヤヒヤさせた。伊東では古谷旅館に宿泊し、温泉につかったり、船遊びなどをして過ごした。

海と美しい空と、南国のように明るい太陽、そして温泉、伊東は健康によく、安吾の病気は日増しに回復していった。この間アドルムを1錠も口にしなかった。はじめ気分転換のつもりで出かけて来たのだが、伊東があまりに過ごしやすいため伊東へそのまま居ついてしまった。

古谷旅館には1か月半ほど滞在したが、1週間ごとに同じ献立がまわってくるので、旅館の食事に飽きてすっかり食欲をなくしてしまったこと、伊東に住みつくと決心した以上、いつまでも旅館暮らしをしているわけにもいかないの、秦という人の二階一間を借りた。安吾はこの部屋でぼちぼち仕事を始めるようになった。しかし、なにぶん部屋が狭く夫人のいる場所がないので、西小学校の近くの別荘の二階を借りることにした。階下には湯川秀樹博士の親戚にあたるおばあさんと姪の娘さんの二人がひっそりと住んでいた。

この家には3ヶ月ほどいて、松川沿いの一戸建ての家に移った。来客が増え、台所が不便であったことから美千代夫人の希望であった。』……

安吾が伊東に来たいきさつは以上の通りで、以後伊東を離れるまでの数年、この一軒家で生活することになる。安吾が最初に伊東に来た時、尾崎士郎と再開を果たすことになる。士郎は戦前から伊東の松川上流に別荘を持っていた。

前置きが大幅長くなったが、今回安吾が伊東で暮らした間に二つの大きな出来事があった。

一つは安吾と士郎の関わり、もう一つは伊東温泉競輪八百長事件である。これについて紹介する。

(一) 坂口安吾と尾崎士郎

安吾が伊東に来たのは昭和24年7月である。
伊東療養を勧めたのは、士郎とのことである。
それから2年半、二人はほんの目と鼻の先に
住んで頻繁に行ききしていたことになる。



尾崎士郎（左）と坂口安吾（左隣）
（図説伊東の歴史より）

二人でフンドシーツの姿で田んぼを歩いて
野天風呂に入りに行ったとか、二人が街中を闊歩し
て飲み歩く姿が印象的であったとか、
色々噂されていた。年齢は士郎が安吾より8才年上であった。二人の出会いはまことに
劇的であった。安吾の「私は誰？」という文章に次のように書かれている。

……『 私が『作品』という雑誌に一文を書いて、徳田秋声先生をコキおろしたところ、先輩に対する礼を知らない奴であるとフンガイしたのが尾崎士郎で、竹村書房を介して私に決闘を申し込んできた。場所は帝大の御殿山。景色がいいや。彼は新派だ。元より私は快諾し、指定の時間に出かけていくと、まず酒を飲もうと飲むほどに、上野より浅草へ、吉原は土手の馬肉屋、ついに夜が明け、又昼になり、かくて私は家へ帰ると、血を吐いた。惨又惨。私は尾崎士郎との決闘に打ち負かされた次第である。』 ……

これが縁で以後二人はフンケイの交わりを結んでいる。

伊東における二人の逸話は数多くあるが、ここでは『肝臓先生』との交友について述べる。

昭和24年頃、伊東に幾つかの同人雑誌が生まれたが、中でも尾崎士郎が中心になった「山彦」は、傑出していた。この創刊号に肝臓先生こと天城診療所所長佐藤十雨氏が「肝臓先生」という小説を書いた。この小説を読んだ坂口安吾はいたく感激し、昭和25年、安吾は同題の「肝臓先生」という題

名で「文学界」1月号のトップ小説として発表した。これは非常に評判が良かった。

昭和12年の末頃、肝臓先生は妙なことに気がついた。診る患者のほとんど全部の肝臓が膨れているのである。疑いもなく肝臓炎の症状を呈している。それから肝臓先生の苦闘が続く。先覚者の常で、殆んどどの患者に肝臓炎の病名をつける彼は、町の人々や他の医者仲間から肝臓医者とさげすまれて呼ばれるようになった。保険医の辞退など苦難の月日は長かった。

肝臓研究の権威長崎医大の角尾教授の賛同と激励を得て、次第に彼の努力が認められるようになり、肝臓先生という呼び名もいつしか尊敬に変わって行った。

この肝臓先生の苦難の時代、尾崎士郎と坂口安吾、そして尾崎士郎文学碑設立の中心人物である画家の日下泰輔の3名のみで肝臓先生後援会を作り、「結成書」を作成し、先生を激励している。

士郎も安吾も共に肝臓が悪く、特に安吾は四横指も肝臓が腫れていて、毎日のように診察を受けていた時期がある。

佐藤十雨の著書「肝臓先生」（昭和29年版）には、士郎や安吾との交友の有様、彼の肝臓研究における苦闘の日々が味わい深い文章をもって綴られている。

（二）伊東温泉競輪八百長事件

伊東に競輪場が出来たのは、安吾が伊東に住むようになった昭和24年から1年位後のことだが、競輪場が出来る前は建設反対派だった。

しかし、いざ出来てみると、ほとんど1日も欠かさず夫人と出かけている。競輪新聞や雑誌を買い集め研究するので、予想が的中することが多くなり、予想屋に聞かれるほどだったという。

ある時、競輪の不正と思われる事件が勃発する。この経緯はその日安吾と同行した福田蘭堂氏が書いている。

……『 ある日私は安吾夫妻と共に伊東競輪場に行き、審判台下の客席に腰を据えてレースの展開を

見守っていた。十レースのA級一般のときだった。ゴールした選手の判定に、審判官の間違いがあつたと、私達六つのマナコがとらえたのである。松川ベリの安吾邸に着くなり、レースの再検討をした。その結果は八百長と断定し、「憤慨」をおかずに洋酒をジャンジャンとあおつた。

翌日の新聞に『坂口安吾氏、伊東競輪を告訴』という大きな見出しで三面のトップを飾っていた。沼津の検事局へ提案したというのである。』……

安吾もこの時のことを詳細に語っている。

……『 レースは最終回の三コーナーから中川選手が先頭に出て、かなり他を引き離して第四コーナーまで後方にいた武田が外わくからぐんぐん他を抜いて最後の直線で中川に迫り、前車輪一つの差まで追い詰めた。そこからゴールまでまだ5、60メートルは充分にあつたから、中川は抜かれるだろうと思ったところ意外にもその後の中川のネバリは物凄いものがあつた。前車輪一つの差がどうしても縮まらない。ゴールの前3、40メートルの所で二人の車輪が接触してインコーナーの中川が内側へ倒れそうになったほど二人の車輪は接近していた。ピッタリ接近して前車輪一つの差がどうしても縮まらぬゴールインだから、肉眼でも狂いのないレースであつた。』……

しかし判定は安吾の予想に反して一着 武田、二着 中川であつた。判定の決め手となつた写真を取り寄せ熟考を重ねた結果、この写真は巧みに修正しているという結論に達し、静岡県自転車振興会を相手どつて告訴した。

静岡県警と通産省が乗り出し、通産省は安吾の思い違い、県警はフィルムの修正は認められず の判決を下した、

この競輪問題に加え、昭和26年の国税庁との税金問題が加わり、安吾の精神状態が再び怪しくなり始め、強度の強迫観念に取りつかれ、昭和27年2月、伊東を逃げて桐生に移住するのである。

伊東での2年半にわたる生活、あとの半年を除いた2年間は、生活的にも精神的にも安吾の人生に

とってかなり幸福な時代であったと思う。

桐生に移って3年目の昭和30年2月、脳溢血のため、49才で生涯を終えた。

どんな形であれ、「賭け事にのめり込むと身を亡ぼす」という世の中の教訓を安吾自身が後世の人のために残してくれたのであろうか。伊東温泉競輪は今日も賑やかに開催されているようである。

【事務局便り】

1) 年次総会

年次総会が5月16日中央会館にて開催され昨年度の事業/決算報告及び本年度の事業計画・予算が承認されました。

2) 黒船祭

コロナ禍にて中止されていた黒船祭が開催され5月19日小学校での通訳として当会2名の会員が参加しました。

3) 英語サロン

毎月開催されている英語サロンですが、7月は新たに八幡野・富戸小学校でALTをしているジャマイカ出身の Shimeica さんが参加してくれました。例年8月はお休みですが9月から従来とおり開催します。

4) K's サロン

コロナ禍で長く不開催でしたK's サロンも7月6日に開催されました。こちら9月より月に1回のペースで開催予定です。

5) イチゴサロン・土曜会

イチゴサロンも毎月当会の活動報告及び計画を話し合う場として、土曜会は会員有志による英語勉強会として毎月開催されています。

6) 英語講演会

第4回英語講演会を今秋から来年春に又、講演内容も、次のように変更する予定で計画を進めています。

講演者： Mary Corbett

講演題名： (仮) Goddess Over Tokyo Bay

マリリン： 女神への変身

【編集後記】

連日猛暑が続いています。まだ、7月で梅雨が明けたばかりだというのに。

これから続く長い夏の事を思うと気が遠くなりそうです。

今日（7月29日）は高校野球の静岡大会決勝戦。炎天下で3時間以上戦い続けた選手、暑さなど撥ね飛ばす勢いの応援団の皆様のエネルギーに頭が下がります。

さて、菊池さんの「チャット GPT に聞きました」、私も息子などからその便利さは聞いていたのですが、菊池さんの文を読んで、その模範的回答のすごさに驚きました。もっとも、私のような昔感覚のアナログ人間からすると、チャット GPT 回答は「面白味のない型通り」と思ってしまうのですが、この路線がずっと進んでいくと、菊池さんの投稿にある「危惧」が現実になる可能性が大きいと思います。人間は迷い、悩み、他人の意見を聞きながら自分を育てていく「考える葦」でありたいと考えるのは私が昭和世代人間だからでしょうか？

加藤さん、下田の黒船祭りでの水兵さんと子どもたちのなごやかな交流が目につく投稿をありがとうございました。寸前まで場所や迎えの手筈が決まらずハラハラしましたが、実際は素晴らしい交流だったようで、うれしいです。84回目という歴史ある祭りがこれからもずっと続いてほしいです。

小松さんの詳しいレポートのように、コロナ禍で3年間お休みしていた K's サロンを再開することになりました。たまたま伊東に旅行に来て、たまたま K's house に泊まった方との一時の語らいは少量のアルコールも入って楽しく、翌日のガイドに繋がったりしたのですが、また再開して賑わいを取り戻し、楽しい会にしていきたいです。AI やスマホのガイドでなく、人間の心の繋がりの旅の思い出になるように。

小西さん、坂口安吾と伊東のつながりをおもしろく読ませていただきました。

混沌とした乱世に自らどっぷりつかり、デカダンスと思われるような生活の中で、もがきながら自分の本質に正直に生きたと思われる坂口ですが、伊東とのつながりを古谷旅館や肝臓先生という懐かしい名

前と共に知り、興味深く読ませてもらいました。

暑い夏を皆様はどう過ごされますか？

涼しい部屋で、10月号の Newsletter の原稿を書いてみるというのはいかがでしょうか？

次回も皆様の投稿をお待ちしています。

そして、酷暑の中、どうかお体に気を付けてご自愛ください。

(稲葉 記)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄